

花桃の里と馬絹古墳探求巡り

かわさきを・見て・聞いて・歩こう

2019/02/21

作成者 川崎の産業観光を支援する会の事務局 根岸雅明



川崎の産業観光を支援する会
花桃と馬絹古墳探求巡りの記録

【概要】川崎の馬絹地区周辺は江戸時代から花卉の特に花桃の生産が盛んでした。3代続く花桃の生産農家の吉田さん宅を訪ね、花桃について学ぶ企画を立てました。

またこの馬絹地区は武蔵野丘陵の高台にあり大昔から人々達が生活をしている息づかいが発見できる場所でもあります。ブラタモリで地域の守り神である神社や7世紀時代のものと思われる古墳などを訪ねて往時の川崎に住んでいた人々に思いをはせることとしました。以下はその記録です。

【日付】平成 31 年 2 月 21 日（木） 9:30～14:30

【目的】花桃の生産農家を訪ね花桃の生産過程などを学び、馬絹地区をブラタモリしていにしえの人々の暮らしに思いをはせる。

【コース概要】宮崎台駅 9:30…陸軍軍用地境界標…花桃生産農家吉田宅訪問…三叉庚申塔…食事処サガミ…馬絹神社…馬絹古墳…旧陸軍歩兵 101 連隊跡…青少年の家・お化け灯籠…14:30 セレサモス解散

【人数】16 人（男性 12 人、女性 4 人）

【地図】 歩いた赤線のコース ガーミンより。



【感想】宮崎台駅に 9 時半集合。朝礼で今日の一日の行程とスタッフの紹介、そして安全歩行をお願いして歩き始める。

丘陵地にある住宅街の細街路を歩く。馬絹方面に下る急階段を下ると階段の脇と踏み台の場所に陸軍の軍標がありました。この一帯は旧陸軍の兵舎や演習場があったそうです。これから歩く虎の門病院分院や宮崎台中学校の体育館跡地にも連隊本部が置かれていたようです。広大すぎて当時の陸軍の用地境はどこからどこまであったのかわかりません。当時の地図でもあれば実感がわくと思いました。

階段を降りると小さな川の矢上川が流れていました。この川は下流で鶴見川に合流するようです。市道の尻手黒川線を横断して再び急坂を登りつめると天台宗の泉福寺がありました。境内に入ると花卉の供養塔や大きなイチョウの木やサルスベリの木がありました。とてもきれいに整備されたお寺でした。

泉福寺の細街路を登りつめると国道 246 号線に出て道路を横断してさらに坂を上りつめて右折した場所に花桃の生産農家の吉田邸に到着。

作業室に入り吉田さんから花桃についての説明を受ける。2 人が花桃の枝を束ねる作業をしていました。ポリバケツの水の中に花桃の枝が束ねて入れてあります。なんとこの水は砂糖水だそうです。花の鮮やかさや水揚げや長持ちをさせるために砂糖を入れているそうです。5 パーセントの砂糖水だそうです。

作業室の開口部にムロがあり、狭い階段を降りるとムロがありました。室の中の温度は夏冬の平均気温が 15 度 C だそうです。ここには地上にある岡室（おかむろ）に入りきれなかった花桃を保管していると話されました。狭く地下なので作業が大変だと話されていました。室の中の温度は 25 度 C に保つそうです。25 度に保つために麦糠を使うそうです。糠の発酵熱を利用するのですね。よく考えたものだと思います。

ムロの構造はむき出しの粘土質でかなり湿気を含んでいました。武蔵野丘陵を作っている関東ロームだと思いました。とてもしっかりしている室だと思いました。

作業所を出て隣の建物の岡室に入ると沢山の花桃が保管されていました。またその隣の作業場が出荷の場所です。道路に面していて直接トラック等の車で市場に運ばれるようです。

正月の三が日が過ぎると本格的な花桃の出荷作業に入るようです。花桃は有馬、野川、十日市場の畑から収穫してくるそうです。吉田さん周辺はすべて宅地で農地はありません。過ってはこの一帯が花桃の生産地だった面影は全くありませんでした。

見学終了後に花桃とお茶をいただきました。女性は二束の花桃とお庭に咲いていた大納言というとても大振りの椿の花をプレゼントしていただきました。下世話の話で恐縮ですがセレスモスで販売していた花桃は一束 380 円ほどでした。

花桃の見学後、三叉庚申塔を見て、坂を下り国道 246 号線のそばにある食事処サ

ガミでお昼としました。各自好きなメニューを注文し、満足な食事のようでした。

見学者たちと一つの部屋で食事が出されるまでの時間は、皆さんと歓談できてとても有意義だったと思いました。

食事後、馬絹神社、馬絹古墳、馬絹大塚供養塔、旧陸軍連隊本部跡を見学しました。青年の家で小休止して施設の機能、役割などを担当の方からお聞きしました。青年だけの利用だけでなく高齢者も大いに利用できますとのことでした。セレスモスに至る道すがらには陸軍の制服を作っていた工場の壁の跡なども見られました。

無事に予定通りにセレスモスに到着。ここで解散として各自買い物する人は買い物をして三々五々お別れしました。

春の一日。花桃の生産農家を訪ね馬絹地区をブラタモリした充実したツアーでした。リーダーの花桃の生産者への訪問交渉や生産者からの花桃のプレゼントに感謝です。ありがとうございました。

【写真】



田園都市線宮崎台駅 9時半集合。朝礼にて行程の概要や留意事項の説明



駅から住宅地の中の丘陵地を登る。



急な階段を馬絹方面に下る。



階段箇所にも二つの軍標がありました。がけ地の中間というところか。



階段を降り切ると矢上川に出会いました。この川は下流で鶴見川に合流します。左手に市道尻手黒川線が走っています。



尻手黒川線。道路を横断して再び登りつめると天台宗の泉福寺がありました。



泉福寺



花の供養塔



イチョウの木



サルスベリの木





国道 246 号線。道路を横断して右手の坂を上る。



花桃の生産農家の吉田邸前の道路と畑。畑の木は花桃ではなくて桜だそうです。右手が吉田邸。



作業室に入り吉田さんから花桃について説明をお聞きする。



ポリバケツに入った花桃の束。水はなんと砂糖水とのことでした。



地下のムロの開口部。



ムロを体験する皆さん



岡室の入り口。まったくの暗室です。



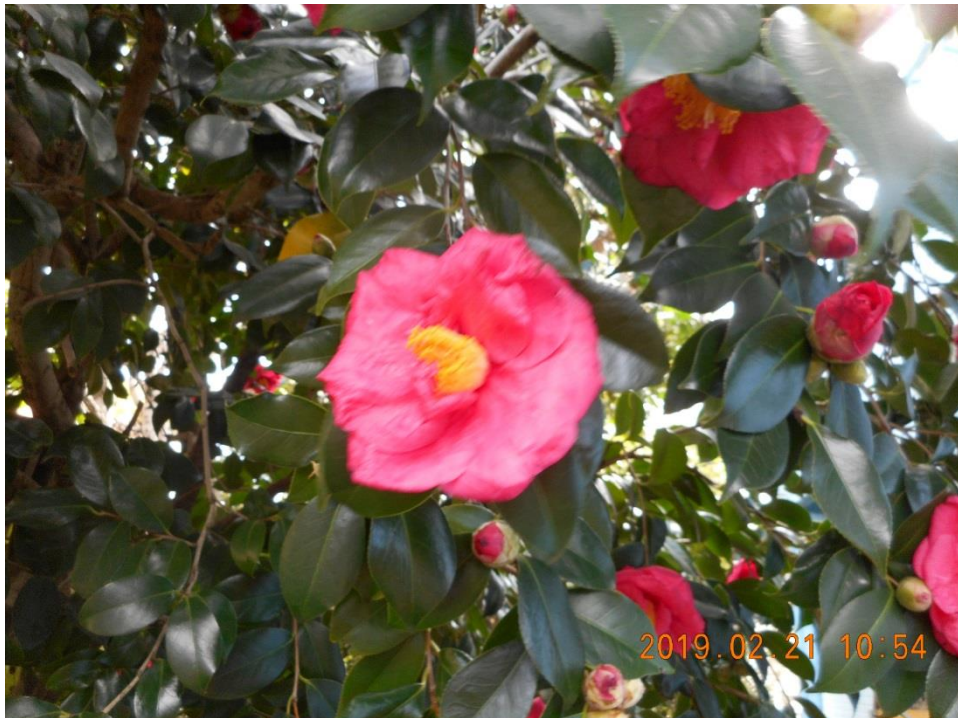
出荷前の花桃が沢山保管されていました。



岡室の建物の前で。



花桃の出荷場所。右手のシャッターを開けると道路になっています。



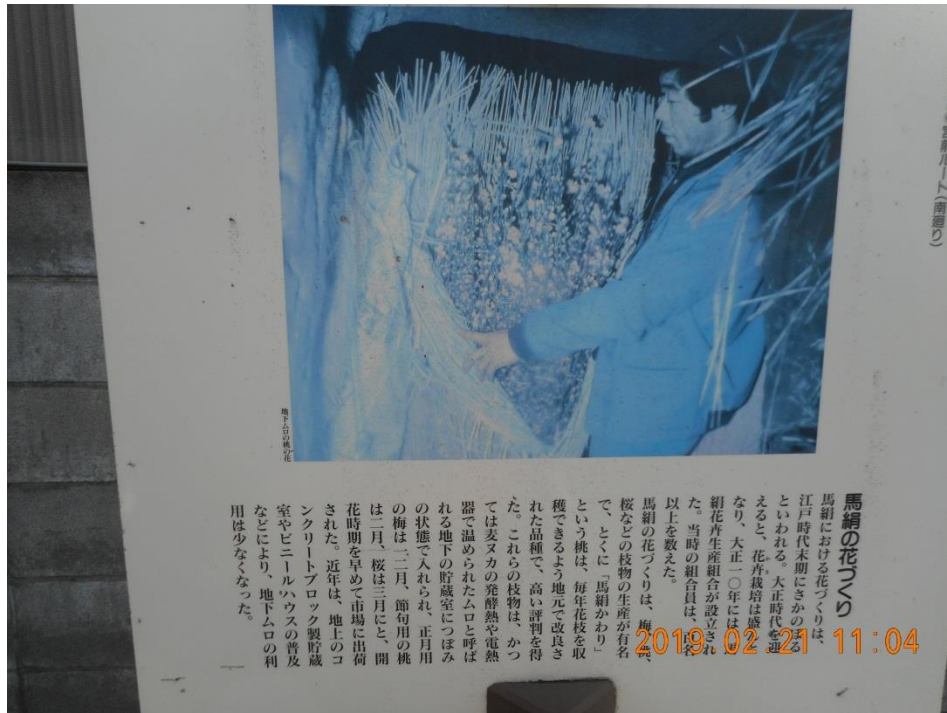
庭に大きな椿の花が咲いていました。大納言という品種だそうです。
女性にプレゼントされました。



この地域の信仰の狼の護符がありました。



見学の最後に花桃のプレゼントがありました。
まさか花桃をいただけるなんて思わなかった
のでとても嬉しかったです。感謝です。



馬絹の花づくりの説明版が道路わきにありました。馬絹の花作りは江戸時代にさかのぼると記されていました。



三叉庚申塔



食事処サガミ。皆さんと歓談できてとても良かった。



馬絹神社



馬絹古墳



馬絹古墳公園



国道 246 号線



虎の門病院部員。過ってこの場所に陸軍の連隊本部があったそうです。



青少年の家の庭に過っての陸軍の灯籠がありました。なぜか灯籠の足がないようです。



青年の家の担当者より施設の説明をお聞きする。子供たちの野外活動などに使われていますが、高齢者にも使用できるようです。



こんもりとした山の上に馬絹大塚供養塔の碑がありました。塚はお墓ですよね。どんな人のお墓なのでしょう。昔のこの地域を納めていた豪族でしょうか。



セレスモスに向かう途中の道の角に昔陸軍の軍服を作っていた工場の壁の跡がありました。

セレスモスに到着後。解散。

古墳時代から人々がこの丘陵地で生活をし、江戸時代には花卉を生産して特に花桃の里として名を成し、やがて太平洋戦争の時代となり軍用地としての機能を果たしてきたこの馬絹の里をブラタモリで歩きました。私たちが住む街はとてつもない長い歴史があること知りました。皆さんはどんな思いで歩いたのでしょうか。

参加いただきましたみな皆様にはありがとうございました。

【アンケート結果】 滝澤様の集計による。

・桃の花まで頂いてとても良かった。

・歩数的にもちょうど良かった。

・心地よい距離の散歩でした。

・花桃のみやげは最高です！

・花桃農園の見学がとても面白かったです。

・桃の花のみやげまで頂けてうれしかったです（見学がコースの最後だったらもっとよかったけれど。）

・花桃のおみやげは大変良かった。

・普段通り過ぎている地域を知ることができ大変楽しかった。

・面白かった。

・良く調べて下さってありがとう。

アンケートご協力ありがとうございました。